

2022 J3 ■順位表 ■第9節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）
（注：*印は消化試合が
数字分少ない）

1	鹿児島	20p	+8	15	7
2	福島	18p	+11	14	3
3	いわき	18p	+8	15	7
4	松本	18p	+7	15	8 H●
5	長野	15p	+1	10	9
6	宮崎	14p	+6	14	8
7	藤枝	14p	+1	12	11 A●
8	今治	14p	-1	6	7
9	富山	13p	+1	17	16 AO
10	沼津	13p	+1	11	10 A●
11	讃岐	11p	0	10	10 A●
1*12	岐阜	10p	+1	13	12 --- ---
1*13	愛媛	9p	-3	6	9 HO
14	北九州	9p	-4	7	11
2*15	相模原	6p	-6	5	11 HO
1*16	八戸	6p	-7	5	12
2*17	鳥取	4p	-9	7	16
1*18	YS横浜	1p	-15	3	18 A△

次回HomeGame

第11節 vs.ヴァンラーレ八戸

6/5 (日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日today's guest : **ガイナーレ鳥取**

2021 J3 9勝2分17敗 勝ち点29:12位

直近の対決と結果

2021/09/11
J3 - 18節@長良川

岐阜 0-3 鳥取

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	ガイナーレ鳥取C
2022/05/15 J3 - 9節@長良川 岐阜 2-0 相模原	2022/05/15 J3 - 9節@A x i s 鳥取 0-4 福島
2022/05/07 天皇杯県予選@長良川 岐阜 5-0 岐阜協立大	2022/04/29 J3 - 7節@富山 富山 3-2 鳥取
2022/05/04 J3 - 8節@藤枝サ 藤枝 4-3 岐阜	2022/04/24 天皇杯県予選@A x i s 鳥取 5-0 YonagoGenki

●横山雄次・新監督が指揮を執ることになったFC岐阜。リーグ戦では初采配となる5/15 (日) 第9節・ホーム相模原戦は、今季初のナイター。試合は相模原が優勢に立つものの、前半8分に#51 石津大介のミドルがゴールを揺らして岐阜が先制する。しかしその後も相模原が試合の流れを掴み続け、後半には決定機も。これを我慢し続けた岐阜は、後半83分に#38 藤岡浩介が値千金の2点目を入れて試合を決定づける。その後も粘り強い守備で相模原の攻撃を跳ね返し続けた岐阜は2-0で勝利。約2か月ぶりにホーム戦でサポーターに勝利を届けることができた。

この結果、FC岐阜は順位を上げて12位に。首位に立った鹿児島との勝点差は10と変わらないものの、2位・福島との勝点差は8に縮めることができた。しかし、この順位には決して誰も満足していないはずだ。まだ、新監督になって連敗が止まり1勝しただけ。他の上位チームよりも多く勝ち続けなければ、そして4試合3勝以上の戦績を残さなければ、『J3優勝・J2復帰』の目標は達成できない。まずは、次の試合で勝利して連勝を達成すること。そうやって目の前の試合をしっかりと勝って連勝を積み重ねていくことが必要不可欠だ。そして岐阜は試合消化数が新型コロナによる開催中止のために上位チームより1少なく、今節はその代替試合だ。つまり上位チームとの差を縮めるためにも、絶対に勝たなくてはならない試合だ。

さて、その大事な今節の対戦相手はガイナーレ鳥取だ。昨季は下位に低迷し、シーズン途中で琉球や鹿児島を指揮した金鍾成監督が就任したが、最終的には12位に終わっている。今季も引き続き金鍾成監督が指揮を執って成績向上を目指しているが、今季もチーム状態が悪く現在はリーグ戦3連敗中で順位は17位。今節は、岐阜に新型コロナ陽性反応者が出てしまい開催中止になった4/3 (日) 第4節の代替試合だが、鳥取も新型コロナ陽性反応者が出て5/5 (祝)の愛媛戦が中止。その代替開催日が5/25 (水)に決まっている。鳥取は5/22 (日)の天皇杯1回戦にも出場が決まっており、つまり2週間で5試合という超過酷な日程の2試合目となる。今節は連敗脱出、そして5連戦での勢いをつけるために、必死に岐阜に挑んでくるだろう。もちろん油断できる対戦相手ではないし、そもそも楽に勝てる試合などJ3リーグに存在しないということも、僕は痛感しているはずだ。

鳥取とのJ3での通算対戦成績は、岐阜の2勝2敗・4得点7失点。前回対戦の9/11 (土) 第18節・ホーム戦では、一昨季まで岐阜に在籍していた#18 石川大地に1G1A、#21 永島悠史にも1Gの“恩返し”を受けて0-3の大量失点で惨敗。あの試合のリベンジを、今節で必ず晴らさなければならない。

鳥取の要注意選手には、まずはチームが不調ながらも3ゴールの#11 大久保優を挙げる。また、2年連続でチーム得点王の#9 田口裕也にも警戒は必要だ。そして当然ながら、今節も“恩返し”を狙う#18 石川大地と#21 永島悠史に、今節こそは決して活躍させる訳にはいかない。中2日での連戦と過酷な日程だが、横山監督の選手起用そして采配に注目したいし、選手たちの奮起にも期待したい。それに、岐阜にとってはホームでの連戦となる。選手たちには『ここから巻き返すんだ』という強いメッセージのあるサッカーを見せて欲しい。キックオフからチーム一丸となって全力で激しく泥くさく戦い、最後まで走り抜いてゴールを奪い、そして勝利する姿を、再びこのホーム・長良川で見せて欲しい。そして、僕らも岐阜の選手たちの背中を押すような応援をしよう。ゲーフラの掲出や、旗やタオルを振ってスタジアムを緑色に染め、大きな拍手の音をスタジアムに響かせよう。平日ナイターだけれど、ここから僕らの逆襲が始まるのだと、そういう気持ちをチーム・フロント・サポーターみんなが持って戦い、必ず勝利を掴み取る。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第9節】岐阜 2-0 相模原

●横山新体制になってからの初めてのリーグ戦。スタメンに若干の変更があったのは、この後水曜に鳥取戦、土曜日に天皇杯の中京大戦を控えてターンオーバー的な意味合いもあっただろう。

まだ攻撃も守備も探り探りやっている感は否めないし、ゲーム中にチャンスが多く作っていたのは相模原の方だった。ただ、藤岡の2点目のシーンも含めて岐阜にラッキーな面が多かったのかと。1点目石津のゴールを演出した本田拓也からのロングボールをキッチリ落とした山内寛史のプレーはお見事。

まだ横山さんの色を出していくには少し時間が掛かりそうな気もするが、上位にしっかり食らいついていくしかないね。(岐阜の誇り)

●まずは天皇杯県決勝で結果を出した横山監督。だけどその対戦相手は大学生。J3の速度・強度には適応できるのか？……と期待と不安の入り混じる、今季初のナイトゲーム。さてスタメンは…今季初スタメンの#14 ホンタクさんと#42 柏木陽介の2ボランチで、#9 山内寛史の1トップ……かな？ #4 橋本和も初出場・初スタメンで、もっと若手を抜擢してくるかと思ってた僕には、少し意外なメンバー。まあでも守備の立て直しが最優先課題なんだから、計算できるベテラン勢を揃えて初戦に臨んだってことかしら？

しかし、試合は序盤から相模原がボールを支配して流れを掴む。確かに最後の部分では守れてるけど……と思ってたら、#14 ホンタクの縦→#9 山内の落とし→#51 石津が思い切りよく足を振ったミドルが相手DFに当たってコースが変わり、先制点！そうそう、こうやって撃てば良いんですよ撃てば。それで崩れたり転がったりするんですからね。それと、これまでサイド一辺倒に近かった岐阜の攻撃に、縦へのクサビという選択肢が出てきたのは評価したいところです。ただ、その後もペースは相模原が優勢に運びつつ、岐阜が失点を許さずに前半終了。さて後半はどのような修正……と、えっ#42 柏木に替えて後半から#10 庄司悦大の投入！？そんな疲れてたようには見えなかったけれど、中2日での鳥取戦を視野に入れた采配なのかしら。でもそれってバクチ的な…と、イヤな不安が的中して相模原の猛攻を浴びる岐阜の守備陣。相模原の#7 船山が抜け出した時は『わーやられたっ……！』って僕の心臓は一瞬止まりかけまして。なんで外してくれたんだろう……(苦笑)。まあ、それが現在の相模原の苦境を象徴しているのかもしれない。もちろん、他人のことを言えた状況ではないけれどね(苦笑)。ここで疲れの見えてきた#4 橋本と#51 石津に替えて#30 宇賀神友弥と#7 村田透馬を投入して左サイドを活性化させる狙い、これが奏功したと思う。我慢し続けた後半終盤、#38 藤岡浩介が相手DFのクリアボールに詰めて弾き、こぼれたところで右足を振り抜いて、本当に苦しい試合を勝ちきる値千金のゴール！この後も粘り強く身体を張って岐阜の選手たちが守り切って、2-0で試合終了。運にも助けられ、なんとか勝ちきった試合だと言えるだろう。だけど、それでも勝つことが何よりも大事だ。まだまだ課題が多いけれど、勝ちながら少しずつ変化……いや新化していった欲しい。そうそう、ベンチ入りしていない選手も含めてフルメンバーでスタジアムを一周してたけれど、あれも変わっていかうとする証なのかな？(ささたく)

●いや〜、寒かった。5月ってこんなんだっけ？上着を持参してよかったよ(苦笑) 試合内容も……とまでは言わないけど、追加点を取る前の相模原のシュートには凍てつきかけた。後方からのフィードにポストの選手が上手く反応して落としたボールがFWの船山に収まった時は「あ、やられたな……」と思ったね。アレが決まったらわからなかった。なんで、外れたんだ？アレ。ソレも含めて、終盤まではあちらのペース。相模原の優勢で進んでたと思う。このサッカーをしてて、なんで、この順位なの？と思ったけど、相模原は消化した試合

数がウチよりも少ないんだね。2点目を取った時点で少しは安堵したけど、監督が代わったくらいでは、ね。一朝一夕には変わらないし、変わらない。それに、先日の天皇杯予選決勝とは相手が違う。縦もサイドも有効に使えたとは言い難いかな。

そんな展開での2点完封。先制点はヒロフミの落としがエクセレント。ゴールはラッキーだったけどね。後半のウチのシュートは3本くらい？最初のヒロフミのが惜しくも外れた後の藤岡。よく粘りました！今季はやられてばかりだった『球際』を制したゴールだったと思う。

とにかく、コレでひと息つけた。あとは、水曜の鳥取戦。ココで勝ち点3を取らなきゃ、相模原戦の勝利が意味を成さなくなってしまう。頼んだよ！

ところで、クボタンがサブにも入ってなかったのはなぜなのか。気になるね。(ぐん、)

●ぜえぜえひいひいで逃げ切ったわけでもなく、何の穢れもない快勝なわけでもない。「決定機を確実に決めた方が勝つ」ではなく「決定機を確実に決められない方が負ける」(苦笑)という試合だった。

岐阜は、ヤマヒロのいい落としに石津のノー・トラップのシュートと、庄司の浮き球パスから藤岡が粘って相手のミスからフリーでシュート。結果、完勝にも見えてしまうスコアの出来上がり。実際は、全然そんなじゃなかった。

相模原サポにはキツイ試合になったな、と思う。悪いサッカーじゃなかったもん、相模原。ただただ、決め切るチカラがなかった。

岐阜は、これまで主戦クラスだった窪ちゃんとアキラと、出場停止明けのフレイレをベンチにも入れず。これが、水曜の鳥取戦を考えての采配だったら理解できる。後半開始からの柏木→庄司の交代も、水曜を考えてのことだと、思いたい(苦笑)。正直言って、後半は縦への推進力が落ちたように思えたので(藤岡のゴールの起点になったパスが庄司から出た、にしても)。横山・新監督が「とにかく目の前の試合を勝つために」ではなく「この2試合で勝ち点6を得るために」とのマネージの結果と考えられるからだ。もっとも、フレイレについては、新監督は彼のいる「前監督時代の守備戦術」に課題を見出していたのかもしれない。実際のところは、今日の鳥取戦や土曜の天皇杯1回戦で明らかになるだろう。

とにかく、柏木+庄司のボランチを諦めてくれただけでも、監督交代の効果はあったというものだ。あとは、これから。(吉田鑄造)